

大学コンソーシアム京都 SDゼミナール

2024年度シラバス



公益
財団
法人 大学コンソーシアム京都
The Consortium of Universities in Kyoto

1. はじめに

18歳人口のさらなる減少や人生100年時代の到来、第4次産業革命の高度化によるSociety5.0、グローバル化の進行など、大学を取り巻く環境は激しく変化しています。大学職員には、次代を見据えた的確な舵取り能力と、環境の変化や社会のニーズを正確に分析し、それを組織における意思決定に反映させ、社会的使命である教育・研究・社会貢献を実現に導く能力が求められます。

本SDゼミナールは、若手・中堅職員を主たるターゲットとし、それぞれの大学の次代を担う人材育成を行うことを目的としています。国公立大学・短期大学から年代の近い人材が集い、数カ月間の長期間に渡って切磋琢磨し合い、強い相互作用が発生する「越境学習」の場であることが、単独大学で行うSDプログラムとの決定的な違いです。また、公開プレゼンテーションや修了時のレポートがあり、「やりっぱなし」「聞きっぱなし」にせず、しっかりと政策提言（職場への業務改善提案、新規業務提案など）としてまとめあげること、またそのためのいくつかの支援の仕組みがあることが、他の類似プログラムと異なる点です。

修了生からは、「生涯繋がる他大学職員とのネットワークができた」「高等教育の基礎知識を改めて学び直せた」「情報を収集し、まとめ、事実と論理に基づいて提言できるようになった」「高等教育全般に興味湧き、各種答申や業界紙を読むようになった」など、具体的な成果や行動の変容に関する感想が寄せられています。わずか数ヶ月、されど数ヶ月です。自己を研鑽し、力をつけ、たった一度の大学職員人生を、より豊かにするためのステップとして、チャレンジいただければ幸いです。

2. SDゼミナールの特徴

SDゼミナールでは、全9回の講義受講、公開プレゼンテーションでの発表、政策提言（職場への業務改善提案、新規業務提案など）を行うレポート（以下、政策提言レポート）の執筆を行います。また、成長度を測るため、受講前と受講後にPROGテスト※を受験していただきます。本ゼミナールの主たる特徴は、以下の3点です。

- ① 一流講師陣による幅広い領域の学習が集中的にでき、知識が獲得できること
- ② 研修内外に提供される豊富な機会（毎回のグループワーク実施、修了翌年のフォローアップ研修など）によって着実に人的ネットワークができること
- ③ 公開プレゼンテーション、政策提言レポートの作成のプロセスで、アカデミック・リテラシーが培われること

※PROGテストについて

学校法人河合塾と株式会社リアセックが共同開発した、ジェネリックスキルの成長を支援するアセスメントプログラムです。専攻・専門に関わらず、社会で求められる汎用的な能力・態度・志向=ジェネリックスキルを測定・育成します。

SDゼミナール受講前と受講後の定められた期間内、ご自宅等よりWEBにて受験していただきます。なお、受験料はSDゼミナール受講料に含まれています。

また、11月下旬には、株式会社リアセックの担当者による解説会を予定しています。解説会は、Zoomミーティングにて実施いたします。開催日時は、受講生に希望を確認したのち、決定いたします。

3. 研修の到達目標

SDゼミナールは、以下の到達目標を掲げています。

- ① 【基礎知識】
大学職員として必要な基礎知識（高等教育情勢や関連する法令・制度、学生動向、大学と社会の関係等）を得る。
- ② 【人的ネットワーク】
他大学の職員と共に学び、切磋琢磨する中で、大学の枠を越えた人的ネットワークを形成する。
- ③ 【自律的学習力】
職業人として自律的に学習・考察する態度を身につける。
- ④ 【ロジカルシンキング】
課題を発見し、論理的に思考することができる。
- ⑤ 【リサーチスキル】
情報収集・分析を行うことができる。

4. 講義スケジュール

実施日	概要	時間	会場
5月25日(土)	オリエンテーション	13:00~14:30	4F:第4講義室※
	第1回	14:50~17:30	
6月1日(土)	第2回	13:50~17:00	5F:第2~第4演習室
6月8日(土)	第3回	13:50~17:00	4F:第4講義室
6月15日(土)	第4回	13:50~17:00	4F:第4講義室
6月22日(土)	第5回	13:50~17:00	4F:第4講義室
6月29日(土)	第6回	13:50~17:00	オンライン (Zoom)
7月6日(土)	第7回	13:50~17:00	4F:第4講義室
7月13日(土)	第8回	13:50~17:00	4F:第4講義室
7月20日(土)	第9回	13:50~17:00	4F:第4講義室
9月14日(土)	公開プレゼンテーション	13:00~18:00	4F:第2講義室
9月21日(土)	公開プレゼンテーション フォロー研修	13:50~17:00	4F:第4講義室

※ 初回(5月25日)は講義前にオリエンテーションを行います。4F第4講義室にお越しください。

第1回 アカデミック・ライティングの基礎

日時	2024年5月25日(土) 14:50~17:30
内容	「問題意識」を具体的な「問い」に変換する方法とは？
講師	坂本 尚志 氏 京都薬科大学 基礎科学系一般教育分野 准教授 専門分野：20世紀フランス思想史、哲学教育
講義の目的と到達目標	この講義では、レポートに代表されるアカデミックな文章の書き方の基礎を、「問い」の立て方、扱い方に焦点を当てて学びます。 講義やグループワークによって、「問い」に基づいた一貫した議論の流れを作れるようになること、そして、業務の中でのこうした方法の応用可能性を、討論を通じて発見することを目的とします。
講義の流れ	
①講義：問いを発見する方法 ②グループワーク：「問い」を言葉にする ③グループワークへのフィードバック ④講義：問いに答える方法	
事前課題	現在の高等教育（日本に限りません）の中で、興味・関心を持っていることをキーワードの形で準備しておいてください（例：ICT活用、キャリア教育、など）。
教材参考文献	坂本尚志(2022)『バカロレアの哲学—「思考の型」で自ら考え、書く』日本実業出版社
受講生に望むこと	「ライティング」の講義ではありますが、書くための技術を解説するのではなく、書き始める前段階の作業である「問いを発見する」「問いを加工する」「問いに答える道筋を立てる」というステップを丁寧に見ていきます。 受講生の皆さんには、「問い」を発見するためのスキルが、日常の業務の中でどのように活かせるのかを考えながら講義に参加してほしいと思います。

第2回 大学の制度・法令・組織

※本講義は、SD 共同研修プログラム「質の高い仕事を目指す！『大学教育関連制度・法令・組織の理解』」との合同開催となります。

日 時	2024年6月1日（土）13:50～17:00
内 容	質の高い仕事のために大学教育関連制度・法令・組織を理解する
講 師	宮林 常崇 氏 東京都公立大学法人 東京都立大学理系管理課長兼学務課長
講義の目的 と 到達目標	<p>本講義の目的は、第3回以降の講義を理解するために必要な基礎的知識・理解を身につけることです。</p> <p>具体的な到達目標は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 大学教育を取り巻く制度・法令・組織のうち、大学運営の中核を担う職員が身につけておくべき知識・理解を身につける。 2) 仕事の質を高めるために役立つフレームワークを修得し、学びで得た知識・理解や人脈を職場で活かすことができる。 3) 大学職員が学ぶことの意義の再確認し、今後も学び続けることができる。
講義の流れ	
<ol style="list-style-type: none"> 1 大学運営の仕組みを理解する（講義・ワーク） 大学運営の仕組み（例 内部質保証）について「根拠法令」と「組織文化」の視点で考えます。 2 大学教育を取り巻く制度・法令を理解する（講義・ワーク） 大学教育の諸制度（例 単位制度）について「根拠法令」と「大学の裁量」の視点で考えます。特に、令和4年度大学設置基準改正について、具体的な事例を交えながら理解を深めます。 3 大学教育を取り巻く課題を理解する（講義・ワーク） 人口減少社会の中で大学が持続していくためには、社会人や留学生など多様な学生をこれまで以上に受け入れることも必要です。リスクや危機管理といったトピックスを大学教育の視点で捉えなおします。 4 大学職員の仕事と学び（講義・ワーク） 質の高い仕事を目指すために、これからどのように担当業務に向き合い、学び続けるかを考えます。 	
事前課題	<p>課題1) 事前配布資料を読んで本講義の流れを把握しておいてください。なお、事前配布資料の中にあるワークについては、自分の回答を用意しておいてください。</p> <p>課題2) 勤務校の大学教育の特徴（例 キャリア教育が充実している）を1つ取り上げ、①その概要、②その教育が勤務校で実施されるようになった経緯や背景をパワーポイント2枚以内に整理して、当日2分以内で説明できるように準備（プレゼンの練習）してきてください。②の経緯や背景を理解するために、勤務校のベテラン教職員に取材することを可能な範囲で試みてください。</p>

<p style="text-align: center;">教材 参考文献</p>	<p>1) 教材 パワーポイント資料等を事前に配布</p> <p>2) 参考文献（事前に目を通す必要はありません。自己学習用です。）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中井俊樹、宮林常崇編(2023)『大学の教務 Q&A 第2版』玉川大学出版部 ・中井俊樹編（2015）『大学 SD 講座1 大学の組織と運営』玉川大学出版部 ・天野郁夫(2013)『大学改革を問い直す』慶應義塾大学出版会 ・中島英博(2019)『大学教職員のための大学組織論入門』ナカニシヤ出版 ・小方直幸(2020)『大学マネジメント論』放送大学教育振興会
<p style="text-align: center;">受講生に 望むこと</p>	<p>ひとりでできる大学業務には限界があります。高等教育や大学業務に関する知識をたくさん吸収し、人脈を広げ、発信したとしても、それが「ひとり仕事」のための努力であるとするならば、大学の未来を担う職員へ成長することは難しいでしょう。</p> <p>大学の未来のために必要な業務の大半は、学生や教職員・社会と協働しなければ遂行できない業務です。その中核で活躍できる職員とは、どのように知識を吸収し、人脈を広げ、発信することが求められているのでしょうか。</p> <p>本講義では高等教育や大学業務に関するベーシックな内容を扱いますが、それらを切り口として対話を繰り返すことにより「職員の学び」について見つめなおす時間にします。事前課題と当日の講義は「何のために学ぶのか」を意識して取り組まれることを期待しています。</p>

第3回 アカデミック・リテラシーと政策提言レポート

日 時	2024年6月8日(土) 13:50~17:00
内 容	アカデミック・リテラシーを理解し、リサーチを開始する
講 師	村山 孝道 氏 京都文教学園 法人事務局 庶務部担当課長
講義の目的 と 到達目標	<p><講義の目的> 9月の公開プレゼンテーション、10月の政策提言レポート期日はあつという間にやってきます。本講義では、これらの概要、レベル感、ゴールまでのプロセスを共有した上で、成果物を生み出すための具体的な第一歩を踏み出していただきます。SDゼミナールの特徴の一つであるアカデミック・リテラシーについて理解を深めた上で、受講者それぞれの研究テーマやリサーチクエストについて、相互に磨き合います。</p> <p><到達目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 公開プレゼンテーション、政策提言レポートの概要とレベル感を説明出来る。 ・ 自身の研究テーマ及びリサーチクエストを説明出来る。 ・ アカデミック・リテラシーの意味や意義、業務との関係を説明出来る。
講義の流れ	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公開プレゼンテーションと政策提言レポートの日程・概要・レベル感などの共有 2. アカデミック・リテラシーの意味や意義、業務との関係 3. グループワーク・個人ワーク <ol style="list-style-type: none"> (ア) 研究テーマを他者に伝えあい、質問しあう (イ) 研究テーマを研ぎ澄まし、リサーチクエストを作る (ウ) 研究の手法を考え選択する (エ) 政策提言レポートの目次(仮)を作成する 	
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ● 研究テーマに関わる先行研究を1つ以上調べる。 ● 研究計画書の内容をもとに研究計画分析シート(後日指示)を作成する。シートは当日、ペアワークやグループワーク等で使用する。
教材 参考文献	<p>井下千以子(2016)『思考を鍛えるレポート・論文作成法(第2版)』慶應義塾大学出版会 松本茂・河野哲也(2007)『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』玉川大学出版部</p> <p>▷ 事前に目を通してまとめる必要はありません。自己学習用です。</p>
受講生に 望むこと	<p>プレゼンテーションや論文は、筋道が立ち、漏れや重複、論理矛盾や飛躍がなく、目的と結果の関係が明瞭なほど、聴衆や読者の頭にスッと入ってきます。そのような、頭にスッと入ってくる提案は納得度が高まり、例えば補助金獲得率も増すでしょう。そのためには、「しっかり調べ」、「しっかり伝える」ことが重要です。抽象的な表現を残し、聴衆や読者が「察してくれるだろう」という淡い期待は捨て、「表現し切る」、「伝えきる」という主体的で強い気持ちが大切だと考えます。少しハードルが高いかもしれませんが、せっかくの機会ですので、楽しんで体験してください。プレゼンとレポートを、悔いの残らないようやり遂げられることを期待します。</p>

第4回 大学と社会

日 時	2024年6月15日(土) 13:50~17:00
内 容	大学と社会 ―地域連携の意味と大学の役割―
講 師	深尾 昌峰 氏 龍谷大学 政策学部 教授 専門分野：地域づくり、非営利組織論、ローカルファイナンス
講義の目的 と 到達目標	人口減少時代、超高齢化社会を迎える中で、社会が求める大学の役割、地域社会に根ざす大学のあり方が問われている。これまでの大学連携や地域連携の事例をもとに、これからの大学の役割を考え、スタッフ部門の役割と求められる能力について考える。
講義の流れ	
<p>これからの社会動向・地域事情と大学の役割に関する講義（120分）</p> <p>①これからの地域社会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・50年を見通した時の「地域」 ・課題先進国「日本」とこれからのローカルガバナンス ・社会課題の位相と大学 ・持続可能性と地域社会 ・地域経済循環と地域コミュニティ <p>②大学の地域連携／地域貢献の意味と役割</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マルチパートナーシップ ・知を統合する存在としての大学、点としての個人・ゼミ ・価値創造 ・人生100年時代における大学・高等教育 キャリア形成拠点として <p>③大学に「ある」ものを「つなぎ」「引き出す」必要性和スタッフ</p> <p>④受講者とのディスカッション（60分）</p>	
事前課題	<ul style="list-style-type: none"> ○自身の大学の地域連携事例などの実態を把握し、現状と課題をつかんでおく。 ○自身の大学のポテンシャルは何かを考えまとめておく。
教材 参考文献	<p>参考文献</p> <p>広井良典『定常型社会―新しい豊かさの構想』（岩波新書）</p> <p>増田寛也『地方消滅』（中公新書）</p>
受講生に 望むこと	大学の地域連携の成熟度合いや大学の新たな役割の開拓は職員の皆さんにかかっています。若年性人口が減少する中で、大学の特性を生かした貢献が大学経営にとっても好循環を生み出すことにつながります。これら比較的新しいミッションに果敢に取り組んでいって欲しいと思います。

第5回 大学教育の質保証に向けた教学マネジメント

日 時	2024年6月22日(土) 13:50~17:00
内 容	自校の教学マネジメントを推進していくための討議と助言
講 師	西野 毅朗 氏 京都橘大学 教育開発・学習支援室／経営学部 経営学科 准教授 専門分野：教育文化学、大学教育学、高等教育開発
講義の目的 と 到達目標	1. 教学マネジメントに関わる基礎知識を習得する。 2. 自校の教学マネジメントの状況を、他大学と比較しつつ把握する。 3. 自校の教学マネジメントを今後推進していくための課題と解決策を立案する。
講義の流れ	
<p>1. 自校の教学マネジメントの現状と課題の把握 (90分)</p> <p>(1) 導入</p> <p>(2) グループ内で事前課題の内容を発表し、コメントし合う。</p> <p>(3) 講師から事前課題の分析結果と全体に対するフィードバックを行う。</p> <p>—休憩 (10分) —</p> <p>2. 教学マネジメント課題に対する解決策の模索 (90分)</p> <p>(4) グループ内で、各大学(部局)が抱える教学マネジメント課題をいかに解決していくべきか議論する。</p> <p>(5) 各グループの議論に対する講師からのフィードバック</p> <p>(6) まとめ</p>	
事前課題	<p>中央教育審議会大学分科会が令和2年1月22日に提示した「教学マネジメント指針」 (https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html) を読んだりサイトに掲載されている動画を視聴し、以下の項目について5点満点で(5:よくできている、4:まあできている、3:どちらともえない 2:あまりできていない 1:全くできていない)で所属する大学(あるいは特定の学部や学科に絞っていただいて構いません)の状況を評価し、その評価理由(できている点、できていない点、その理由等)を具体的にレポートしたものを、事前に提出してください。※Excelフォーマットあり</p> <ol style="list-style-type: none"> 学修目標の具体化 体系的な教育課程の編成 学修成果の可視化 教学マネジメントを支える基盤 情報公開 <p>ご自身が教学関連の組織に属していない場合は、学内の資料を参照したり、関連する組織のどなたかにヒアリングすることを推奨します。また、レポートの最後に、本研修を通じて解決したい疑問や、学びたいことがあれば自由に書いてください。補足資料があれば添付していただいても構いません。なお、本レポートは講師が研修を設計するための参考にするだけでなく、受講生間で公開し合い、受講生同士が議論する材料とする予定です。受講生以外に公開することはありません。以上を踏まえたうえでレポート作成にあたってください。</p>
教材 参考文献	<p>「教学マネジメント指針」(令和2年1月22日 中央教育審議会大学分科会) https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00001.html 「教学マネジメント指針(追補)」(令和5年2月24日 中央教育審議会大学分科会) https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1411360_00014.html</p>
受講生に 望むこと	<p>本講座では、「読めばわかる」ことは原則講義しません。(フィードバックの必要性から、重要な基礎知識等があればお伝えいたします。)むしろ、参加者同士が各大学(部局)の状況を共有しあい、コメントし合うことで、それぞれの大学の特徴に応じた教学マネジメントの推進策を見いだせるようにしていくことが最大のねらいになります。また講師はこのねらいを達成できるよう全体のファシリテートやフィードバックを大事にします。日常業務が大変なことと存じますが、提示した教材(大変であれば、要旨だけでも構いません)を読み、事前課題に真剣に取り組んでいただけることを願います。</p>

第6回 大学の戦略とリーダーシップ

日 時	2024年6月29日(土) 13:50~17:00【オンライン (Zoom)】
内 容	戦略を創出する組織づくり
講 師	吉武 博通 氏 情報・システム研究機構監事／東京家政学院理事長／ 筑波大学名誉教授 専門分野：経営管理論、大学経営論
講義の目的 と 到達目標	日本経済の長期にわたる停滞、予想を上回る速さで進む18歳人口の減少に加え、コロナ禍や不安定化する国際情勢など、大学を取り巻く環境は一層厳しさを増しつつある。その中において、大学は如何なる役割を果たすべきか、自校が社会的存在価値を高めつつ、存続・発展していくために何が必要かについて、「戦略」と「組織」を切り口に検討するとともに、「戦略を創出する組織」の担い手としての大学スタッフに期待される役割について共に考えてみたい。
講義の流れ	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学を取り巻く内外の環境 2. これまでの改革の評価 3. 「戦略」の本質、大学に「戦略」が必要な理由 4. 「組織」の本質、大学組織の課題 5. 「戦略を創出する組織」づくりの枠組み 6. デジタルトランスフォーメーション (DX) と組織変革 7. リーダーシップの本質とその養成 8. ダイバーシティ重視の組織づくり 	
事前課題	<p>企業と大学は目的が異なり、組織の性質も異なる面が多いのは確かですが、組織ごとに共通の目的を有し、経営資源（ヒト、モノ、カネ、情報）を投入して、より良質なサービスを提供するという点で重なり合う面も少なくありません。戦略論や組織論は主として企業を対象とする研究の中から生まれてきた理論ですが、大学の戦略や組織を考える上で多くの示唆を与えてくれるはずですが。</p> <p>このような観点から、経営学関連3冊、データ分析関連1冊、高等教育関連2冊を参考文献としました。いずれも新書です。興味のあるものを2～3冊読んで講義に臨んでください。加えて、リクルート『カレッジマネジメント』に連載中の拙稿「大学を強くする」の中で講義内容に関係のあるものを選んで読んでいただくと幸いです。雑誌名検索でPDFを無料入手できます。</p>
教材 参考文献	<p>(教材) パワーポイント資料を配布</p> <p>(推薦) 三品和広 (2006) 『経営戦略を問いなおす』 ちくま新書 沼上 幹 (2003) 『組織戦略の考え方』 ちくま新書 金井壽宏 (2005) 『リーダーシップ入門』 日経文庫 伊藤公一 (2017) 『データ分析の力-因果関係に迫る思考法』 光文社新書 荻谷剛彦 (2017) 『オックスフォードからの警鐘』 中公新書ラクレ 佐藤 仁 (2017) 『教えてみた「米国トップ校」』 角川新書</p>
受講生に 望むこと	大学の教育においても学生の主体的・能動的な参加が重視されているように、本シラバスを参考に文献を読み、自身が理事長や学長だったら自分の大学をどうしたいかという視点で考えた上で、講義に臨み、積極的に意見を述べてほしいと思います。お会いするのを楽しみにしています。

第7回 ブランディング・学生募集

日 時	2024年7月6日(土) 13:50~17:00
内 容	大学ブランディングの進め方
講 師	上條 憲二 氏 愛知東邦大学 経営学部 地域ビジネス学科 教授 専門分野：ブランド論、広告論
講義の目的 と 到達目標	<p><目的></p> <p>① ブランド、ブランディングの概念を理解する。</p> <p>② ブランディングの具体的な進め方を理解する。</p> <p><到達目標></p> <p>③ 実際に自分たちの大学組織のブランドコンセプト(ブランドステートメント)の仮説を考えることにより、ブランディングの方向性、可能性を認識する。</p>
講義の流れ	
<p>ブランディングについての講義だけでなく、実際に自分自身でブランドステートメント(スローガン)を考えることにより納得感が高まる構成にします。</p> <p>1. 講義</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランド、ブランディングとは何か ・ブランディングの設計図について ・ブランディング事例(大学、企業、組織など) <p>2. ワークショップ「自分の大学のブランドステートメント」を作ってみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブランドステートメントとは何か ・プロポジションリスト(セールスポイントリスト)作成 ・ブランドステートメント作成 <p>3. 発表</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自が作成したブランドステートメントを発表 <p>4. 講評&クロージング</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表されたブランドステートメントに対する講評 ・質疑応答 	
事前課題	<p>自身が勤務する大学について次の点を事前に調べておいてください。</p> <p>どんなことでも結構です。</p> <p>① 長所、強み、自慢できることなど</p> <p>② 短所、弱み、問題点など</p> <p>どのようなことでも結構ですので、できるだけたくさん挙げてみてください。特に、①について</p>
教材 参考文献	<p>① パワーポイントの教材を用意します。</p> <p>② 「超実践!ブランドマネジメント入門」(ディスカヴァー・トゥエンティワン) 上條憲二著</p> <p>③ 「ブランディング7つの原則・改訂版」(日経 BP 日本経済出版本部)</p>
受講生に 望むこと	<p>ブランディングは「ビジョン」や「ありたい姿」「目指す姿」などを自由に発想するところから始まります。何が正解かは分かりませんが、チャレンジする面白さがあります。</p> <p>「左脳の考え」×「右脳の思い」が大事です。</p> <p>「楽しく、自由に、柔軟に」進めましょう。</p>

第8回 大学と高大連携・高大接続

日 時	2024年7月13日(土) 13:50~17:00
内 容	高等学校教育から、高大接続について考える
講 師	荒瀬 克己 氏 独立行政法人教職員支援機構 理事長 専門分野：言語技術、コミュニケーション、初等中等教育、キャリア教育
講義の目的 と 到達目標	学生を主語にする大学教育を実現するために、初等中等教育の最終段階である高等学校教育について、高等学校学習指導要領、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」(2021年1月)等を参考に考察する。 初等中等教育の方向性を理解するとともに、大学教育の在り方を展望する。
講義の流れ	
<p>1. 講義「主体的な学習者を育てているか」(90分)</p> <p>2021年7月に「大学入試のあり方に関する検討会議」が「提言」を出した。この「提言」によって、「頓挫」した高大接続改革についての点検・評価がなされ一定の方向性が示されたことになる。大学入試は高校生にも高等学校教育にも大きな影響力を持つもので、社会的にも注目される存在である。ただし、一人の若者が学びを重ね、社会で他者と関わり幸福に豊かに生きていくことを願うとき、大学入試を含め、高等学校教育と大学教育の接続、大学教育と社会との接続について考えることを忘れてはならない。</p> <p>若者たちが生涯にわたって主体的に学習するための基盤を培うにはどうすればよいか。 そのため、高等学校(までの)教育、大学教育は何をどのように担うことが必要か。</p> <p>講義では、学習指導要領改訂に向けた中央教育審議会答申(2016年12月)、高等学校学習指導要領(2018年3月)、そして新学習指導要領の着実な実施に向けた中央教育委審議会答申(2021年1月)の考え方をベースに、高等学校教育・大学教育・大学入学者選抜の望ましい在り方について、キャリア教育の観点から概説する。</p> <p>2. ワークショップ(80分)</p> <p>講義を踏まえ、主体的な学習者を育てる上で必要なことについて、また、そのための大学の役割について、参加者が「問いを立てる」ことを通して考えを深め交流するワークショップを適宜実施する。</p> <p>3. まとめ(10分)</p> <p>取り組みを振り返り、各自が今後の大学教育の在り方と自身の関わりについて問いを立てる。</p>	
事前課題	中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」(2016年12月)、高等学校学習指導要領(2018年3月)前文及び第1章総則、中央教育審議会答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」(2021年1月)を、可能な限り、文部科学省HP等で読んでいただきたい。
教材 参考文献	必要に応じて講義の中で紹介する。
受講生に 望むこと	○書くことが重要であると考えています。疑問や意見、推論等を積極的にメモするようにしてください。 ○「講義の流れ」は予定です。時間配分や内容については、受講者の状況に応じて変更することがあります。

第9回 大学と高等教育政策

日 時	2024年7月20日（土）13:50～17:00
内 容	高等教育政策の側から大学を見ると
講 師	松坂 浩史 氏 文部科学省大臣官房総務課長 専門分野：高等教育行政
講義の目的 と 到達目標	令和4年に大学設置基準が改正、令和5年には私立学校法が改正されるなど、大学に関する重要法令の改正が続いている。また、理工系や文理融合型のプログラムへの転換を推奨するなど教学マネジメント関連の動きも近年活発である。 これら大学側からは見えにくい高等教育政策の背景について考えることにより、今後、大学職員として働く中で、高等教育政策の基礎知識や背景を知るとともに、政策を「見る目」を養うことを目的とする。
講義の流れ	
1 文部科学省の組織と業務 大学関係者の基本知識として、文部科学省内の組織と担当する業務を知る。	
2 大学改革の歴史と背景 大学は常に改革を求められているが、これまでどのような大学改革テーマが示され、どのように対応してきたのか、いまの大学改革の主要なテーマは何なのかの解説を行い、これらを通じて、大学改革が求められる背景を理解する。	
3 近年の法令改正の状況 大学設置基準や私立学校法の改正の状況を踏まえ、最新情報を提供する。	
事前課題	文部科学省ホームページで以下の資料を御一読ください。 私立学校法改正案（概要） 令和4年度大学設置基準等の改正について また、高等教育政策に関連して関心のあるテーマがあれば、そのテーマと気になる理由を数行程度で記載したものを提出してください。
教材 参考文献	パワーポイント等の資料を用意します。
受講生に 望むこと	大学で働く職員にとっては、文部科学省や国が打ち出す高等教育政策は所与のものとして捉えられることが多いですが、それぞれの政策課題ごとに様々な背景があります。提示された施策だけでは、なぜそのような改革が必要なのか、について理解することが難しい場合がありますが、これまでの大学改革テーマを例に、「なぜ、その改革が必要なのか」「(各大学として) どのように対応するか」を考えてみたいと思います。

公開プレゼンテーションフォロー研修

日 時	2024年9月21日(土) 13:50~17:00
講 師	神田 悟 氏 京都薬科大学 進路支援課 本田 純一 氏 京都橘学園 たちばな大路こども園 事務室長
内 容	公開プレゼンテーションについて、自己評価と他者評価を組み合わせた振り返りを実施し、また、その振り返りの内容を、もう一つの山場である政策提言レポートの執筆に活かしていくことを目指します。個人ワーク・グループワーク中心で、公開プレゼンテーションを終えてちょっと一息ついていただき、ここからレポート執筆に立ち向かうために、またギアを上げていく、そのきっかけとする研修です。

政策提言レポート

【政策提言レポート】

執筆要領：形式 Microsoft Word (A4版) 横書き 40字×30行設定

分量 6ページ以上10ページ以内(図表・参考文献等を含む)

※ 事前に申し出があった場合に限り、10ページ以上可

◆ 一次提出締切日：10月7日(月) ※2週間以内にアドバイスをさせていただきます。

◆ 最終提出締切日：11月5日(火)

◆ 提出方法：ファイル名「【氏名_大学名】SDゼミナール政策提言レポート(一次提出・最終提出)」

とし、「どこでもキャビネット」の「提出先_氏名」へアップロードしてください。

執筆要領等の詳細な内容については、オリエンテーションおよび受講期間中にご案内いたします。

政策提言レポートは、報告集として「SDゼミナール政策提言レポート集」を発行いたします(12月発行)。

その他提出物について

【事前課題】

第5回(6/22)、第9回(7/20)の講義について、事前に提出いただく課題があります。必ず提出ください。他、当日までに準備いただく課題もございますので、全講義のシラバスは必ずご確認ください。

- ◆ 事前課題提出締切日：・第5回 6月19日(水) 正午
・第9回 7月16日(火)

◆ 事前課題内容：第5回、第9回のシラバスをご確認ください。

◆ 提出方法：ファイル名「【氏名_大学名】SDゼミナール第〇回 事前課題」とし、「どこでもキャビネット」の「提出先_氏名」へアップロードしてください。

※第3回(6/8)、第5回(6/22)の事前課題には、講師指定のフォーマットがあります。

後日事務局よりメールでご案内いたしますので、ご確認ください。

【中間報告書】

政策提言レポートの計画的な作成のため、政策提言レポートの概要について提出いただきます。執筆要領については、オリエンテーションおよび受講期間中にご説明いたします。

提出締切日：7月1日(月)

【公開プレゼンテーション発表テーマ】

テーマ一覧を事前に財団Webサイトにて公開し、見学者を募集します。

提出締切日：7月29日(月)

【公開プレゼンテーション資料(パワーポイント)】

政策提言レポートのテーマに基づいて、発表していただく資料になります。

詳細については、オリエンテーションおよび受講期間中にご説明いたします。

提出締切日：9月9日(月)

本シラバスの無断複写、転写、転載は著作権上の例外を除き、お断り申し上げます。